

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572408714		
法人名	医療法人 清流会		
事業所名	グループホーム野崎		
所在地	秋田市河辺三内字野崎35-4 (電話) 018-881-2131		
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団		
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1		
訪問調査日	平成20年11月4日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 8日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	一部2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	13,090~13,590円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	300円	おやつ 100円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	8名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 86歳	最低	68歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩見三内クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれ地域に根ざしたホームは、地域住民との交流が盛んに行なわれている。ホーム内は明るく清潔感があり、職員も和やかな笑顔で利用者に接している。職員のストレス軽減を積極的に行い、ゆとりある介護に取り組めるよう配慮しており、利用者がゆったりと安心して過ごし、その人らしい望む暮らしが出来る様に支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員のストレス解消については、県のグループホーム協議会へ入会し外部との交流の機会を設けたり、入居者から離れて休憩できるように部屋を確保するなど、改善に向けた取り組みがされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員がそれぞれ自己評価に取り組み、ホーム全体の評価としてまとめ、評価を積極的に活かし、サービスの改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域住民、家族、地域包括支援センター職員などをメンバーにした運営推進会議を3ヶ月ごとに開催している。その中で出された意見を運営に反映させ、サービスの向上に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的な近況報告やお便りの発送時に、書面にて意見や不安等を聞き取るなど、家族の意見等の聴取に努めている。また、年2回開催している家族との懇談会においても、直接家族から意見を伺い、運営に反映するよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に挨拶を交し合い、理解と協力を互いに深めることができるよう、努力している。また、緊急時の地域との連携を図っている他、運営推進会議にも参加していただき、良好な関係を築いている。</p>

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域と地域住民との交流の下で、「残存機能を活かしその人らしく暮らし続けることをサポートする」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者と管理者と職員は、理念を見やすいところに掲示し、常に意識しながら日常のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで夏祭りを主催し、地域住民と交流する場を設けている。また、近隣の清掃活動に参加するなど、地域の一員としての役割を担っていく努力もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に対しては積極的に取り組み、サービスの質の向上に活かして行こうとする姿勢がみられる。 全職員が自己評価に取り組み、見直しや今後の課題に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、地域住民や家族等の幅広い立場の人たちから意見を聞き、サービスの質の向上に活かすため協力や理解を得るようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連携の重要性を認識し、地域包括支援センター職員から運営推進会議へ参加いただくと共に、気軽に相談できる関係づくりを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者から家族へ健康状態・日々の暮らしぶりの近況報告・預かり金の収支報告などを行っている。併せて書面を同封し、家族からの要望や意見を聞く機会としている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の中に苦情相談窓口を明記し、口頭でも説明している。また、年2回開催している家族との懇談会でも意見を聞き、運営に反映させていく取り組みがされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は、必要最小限に抑え、利用者や家族への対応に配慮し、ダメージを防ぐよう努力している。また、年2回発行の便りの中に行事や職員の異動等についても掲載している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者自身も研修に参加し、全ての職員がその段階に応じて研修に参加できるよう努力されている。職場での日々の体験も学びの機会と捉え、人材の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会へ入会し、交流の機会を設けている。また、間もなく設立される市の協議会へも入会予定であり、サービスの質の向上へ向け取り組む姿勢である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人が安心、納得してサービスが受けられるよう、家族と相談しながら一人ひとりに合わせた受け入れ態勢を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、共に支えあい分かり合う関係をつくるよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、本人の視点に立ってその思いや意向を把握しようと努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・本人をよく知る家族や関係者の意見を聞き、ケース会議等で検討を重ね利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに見直しを行うとともに、新たな要望や変化が生じた場合は、その都度介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族から要望があった場合は、その状況等に応じて柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体である医療機関と連携し、本人・家族の納得が得られるかかりつけ医の診療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を聞き、重度化した場合の指針を定めている。また、状態変化に応じて家族や医療機関、関係者で話し合い、合意を得るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はされていない。職員は個人情報保護の理解に努め、遵守している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人が望む過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、後片付けなど、利用者個々の力を発揮でき、自信につながるようサポートしながら一緒に行っている。また、旬の食材や行事食などで食事を楽しんでもらう工夫も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴日は決まっているが、本人からの要望により、いつでも入れるよう支援している。また、健康状態等に応じて清拭や足浴でも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で楽しみごとや役割を見つめられるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や買い物など、声かけをしながら、一人ひとりの希望・状態に応じ支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	鍵をかけることの弊害は理解しており、日中鍵はかけられていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行うなど、高い意識を持って取り組んでいる。また、職員の連絡体制・地域からの協力体制も整備している。	○	非常口の段差を車椅子での避難がスムーズに行なえるよう、改善されることを期待する。 ※調査後改善済
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるような状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、毎日把握し、記録している。献立も栄養士が作成し、摂取カロリーの把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有生活空間は、適度な採光・温度等、利用者にとって心地よいものとなっている。また、季節感のある花や果実、共同制作の貼り絵や写真などが飾られるなど、居心地のよい空間となるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込み、その人らしい居室作りがされており、本人にとって居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

※ は、重点項目。